
散歩しながら

田崎昌平

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

散歩しながら

【コード】

N0775S

【作者名】

田崎昌平

【あらすじ】

歩きながらいろいろ考えてます
それを小説にしました

そつぞつ

暇だったから。僕はぶらりと外へ出た。クロックスにシャツに短パン。日が暮れて涼しくなった外は夜風が吹いて心地よい。ハンカチで汗を拭く帰宅中のサラリーマンと反対方向に進む。ヒグラシの音色に耳を澄まして。でも時々足元で寝そべる蝉に怯えたりしながら歩く。とても穏やかな時間。この空気の一部に自分も溶けてしまつたようだ。

僕は日本が好きだ。こんなに穏やかで住みやすい国はあるのか。時々思う。春の日差しが好きだ。夏の蝉の鳴き声も好きだ。秋の寂しさも好きだ。冬の朝の寒さが好きだ。

あの子が好きだ。あの子の仕草、声、性格、笑顔も好きだ。

お母さんの作るご飯も味噌汁も好きだ。焼き魚も玉子焼きも好きだ。肉じゃがも野菜炒めもパスタも好きだ。

僕は僕が好きだ。不器用で神経質で時々むきになって怒つたりするところも、面倒くさがりなところもだらしがないところも、好きだ。生まれ変わってもまた自分でいたい。そんなことを考えながら歩く。申し分のないくらい平和で暮らしやすいこの国でも毎日のように不満が出てくる。でもこうして散歩しているときはそうだった毎日のことを心の中で謝つたりする。

感情論

例えば戦争が起きたとする。僕はどうなるだろう。森の中でひっそりと生き残って、終戦してからひよっこり出てきたい。きつと周りの人は結構な人数が死んでしまっている。それで僕だけ生き残って「あんた生きてたのかい」なんて泣きながら驚かれたりする。もちろんこんな想像を表に出したりはしない。

想像してるときくらいは好きにさせてくれよ。心の中でそつと呟いた。僕は攻撃もしないし防御もしない。森の中でひっそりと暮らしていたいんだ。戦争云々抜きの話で。ひっそりと。

祭りから帰ってきて余韻に浸った顔をしている女の子とすれ違う。浴衣に蝉がとまっていたが今の彼女にはそれすら笑いに変わるだろうと思いなにも言わなかった。もっとも彼女が仕事帰りのOLでスーツに蝉がとまっけていても話しかけないだろう。間違えた。かけられない。僕は人見知りなのだ。

歩きつかれて公園のベンチに腰を掛けた。

街灯に小さな虫がわらわらと集っている。その中にカナブンが何匹か街灯にぶつかってはまたぶつかりを繰り返していた。見ている分には面白いが自分の近くでやられたら気持ち悪くて仕様がなと思つた。人間によって作られた街灯に何度もぶつかるカンブンになんとなく申し訳なく思った。人間がいなければもう少し餌をとる時間が増えただろうに。

犬の散歩をしているおじさんと目が合った。いつもなら逸らすのだが今日は軽く会釈した。おじさんも軽く会釈をしてくれた。いま疑問に思つたのだが、犬の散歩のおじさんではなくて犬と散歩してい

るのではないか。犬は家族とか言ってる人がいたが結局犬を見下してるのか。例えば息子のなまえがタカシだとしたらタカシの散歩してくれるなんて言わないだろう。こんな感情論を自分の中で繰り広げても仕様が無いのだが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0775s/>

散歩しながら

2011年10月8日22時07分発行